

## PRAEVIDENTIA DAILY (11月26日)

## 昨日までの世界：感謝祭前のポジション調整？

昨日は、豪ドルの下落が顕著だった一方、ユーロの持ち直しもみられた。豪ドルは、Lowe・RBA 副総裁が「豪ドルが一段と下落すれば経済成長を支援する」と述べたことを受けて対米ドルを中心に下落、一時 0.8511 ドルと年初来安値を更新した。NZ ドルも豪ドルに概ねつれ安となったようだ。ユーロ/ドルは、1.24 ドル丁度へ軟化する局面があったものの、NY 時間入り後に反発し始め、米消費者信頼感の予想比下振れを受けたドル安もあって一時 1.2486 ドルへ急反発した。

この間、ドル/円相場は、朝方には 118.575 円へ強含む局面がみられたものの、その後は日銀議事要旨や黒田総裁発言への警戒感からか、欧州時間入りにかけて一時 117.67 円へ軟化した。サプライズ追加緩和を決定した際の日銀議事要旨では、追加緩和に関する賛否両論がみられたことが意識されたようだが、元々政策発表時に 5 対 4 の僅差での強行突破であったことは知られており、然程サプライズではない。黒田総裁発言にしても、円安が経済にプラスという考え方について「特に考えは変わっていない」と述べたものの、為替変動の実体経済への影響に十分に注意深く見ていく、としたほか、為替は経済を反映して安定するのが望ましい」と述べ、やや円安誘導にトーンダウンがみられたことが意識されたようだ。その後は米経済指標眺めの展開となり、3Q GDP 改定値は前期比年率+3.9%と速報の+3.3%を上回り、ドル/円も 118 円を回復したが、消費者信頼感 は 88.7 と前月および市場予想を下回ったことからドル反落に繋がり、結局 117 円台後半で引けている。

## 主要通貨ペアの前営業日比変化率と、連動性が高い金利・株価・商品市況の変化(24日)

	変化率	米日2年金利差	米2年金利	日2年金利	米日10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油Brent
ドル/円	-0.2	+0.02	+0.02	+0.00	-0.03	-0.05	-0.02	-0.1	+0.3	-1.9
	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	西伊の対独格差
ユーロ/ドル	+0.3	-0.02	+0.01	+0.02	+0.02	-0.03	-0.05	+0.5	-0.1	-0.01
	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価	
ポンド/ドル	+0.0	-0.03	-0.01	+0.02	+0.01	-0.04	-0.05	+0.0	-0.1	
	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB
豪ドル/米ドル	-1.0	-0.05	-0.02	+0.02	-0.00	-0.05	-0.05	-0.1	+1.4	-0.1
	変化率	NZ-米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ-米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB
NZドル/米ドル	-0.6	-0.02	+0.00	+0.02	+0.01	-0.04	-0.05	-0.1	+1.4	-0.1
	変化率	米加2年金利差	米2年金利	加2年金利	米加10年金利差	米10年金利	加10年金利	米株価	原油WTI	CRB
米ドル/加ドル	-0.2	+0.03	+0.02	-0.01	-0.01	-0.05	-0.04	-0.1	-2.2	-0.1

(注) 為替相場、株価および商品価格は前営業日比変化率、金利は前営業日比変化幅(%ポイント)。

(出所) トムソン・ロイター、プレビデンティア・ストラテジー

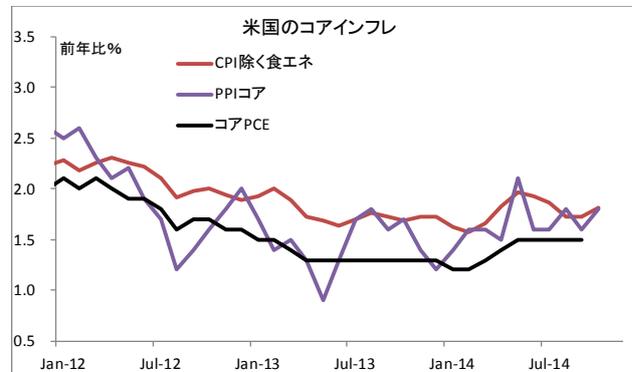
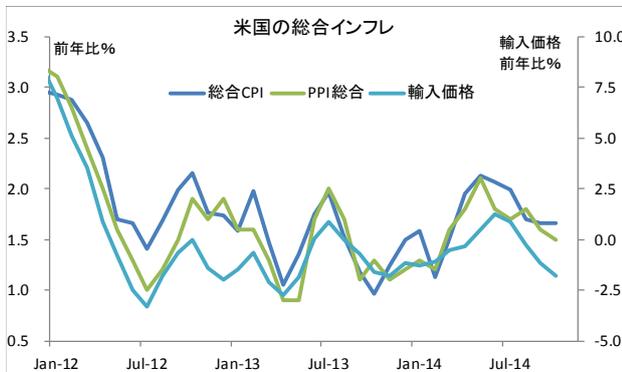
## きょうの高慢な偏見：インフレ上昇でドル復活へ

## きょうの注目通貨：USD/JPY ↑

きょうの指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
豪 3Q 建設工事完工	9 : 30	-1.2%	-1.0%	
白井日銀審議委員発言	10 : 30			14 : 00 に記者会見
Constancio・ECB 副総裁発言	18 : 00			
米 10 月個人所得・前月比	22 : 30	+0.2%	+0.4%	
同個人支出・前月比	22 : 30	-0.2%	+0.3%	
<b>米 10 月コア PCE デフレーター・前年比</b>	<b>22 : 30</b>	<b>+1.5%</b>		
米 10 月耐久財受注・総合・前月比	22 : 30	-1.3%	-0.6%	
同非国防除く航空機・前月比	22 : 30	-1.7%	+1.0%	
米新規失業保険申請件数	22 : 30	29.1 万人	28.8 万人	
米 11 月シカゴ PMI	23 : 45	66.2	63.0	
米 10 月新築住宅販売件数	0 : 00	47 万件	47 万件	
米 10 月中古住宅販売成約件数・前月比	0 : 00	+0.3%	+0.5%	

(出所) トムソン・ロイター等を基にプレビデンティア・ストラテジー作成

本日は米経済指標発表がやたらと多く、全体としてみた場合に市場予想対比でまちまちとなり強い方向感を示さない可能性はあるが、中でも最も重要なのはコア PCE デフレーターと当社はみている。米経済が来年に向けて順調に回復を続け世界経済の牽引役となる中で、労働市場は全体として改善が続いているため市場の警戒感の後退しており、むしろ 2% の目標達成に向けた道筋が確認できていないインフレ率に今後焦点が徐々に移っていくとみられる。こうした中、これまで発表された米国の各種インフレ指標をみると、米ドル高や原油安を受けて輸入物価や総合 PPI、CPI が低下圧力を受けている一方で、コア指標はむしろ上昇しており、Fed が最も重視しているコア PCE デフレーターも前月から伸び率が加速するリスクがあり、その場合にはドル買い材料となる(下図を参照)。ドル/円は 119 円乗せに失敗した後やや上値が重くなっているが、本邦からの口先介入や米経済指標で下値を固めている過程にあり、米インフレ率の上昇はドル上昇再開に向けた契機となりそうだ。



#### ディスクレイマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様ご自身でご判断下さいようよろしくお願い申し上げます。

当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。

当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

プレビデンティア・ストラテジー株式会社

金融商品取引業者(投資助言・代理業)関東財務局長(金商)第2733号

一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員番号 012-02641